# [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]↓

Akira Tanimoto[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひと口に社会人博士といっても一人一人状況が全く異なり、

それぞれ違ったことに悩みながら、

社会人博士課程を修了していることが分かります。

企業研究職で博士号取得を希望されている方は、

実際に取得した方の体験談を読んだり聞いたりすることで、

ご自身がどのように行動すれば博士を取得できるか、

イメージしやすくなるのではと思います。

そこで、私の社会人博士取得体験について記事することによって、

社会人博士を検討している企業研究者の方の

お役に立てるのではないかと考えました。

そこで、

私が社会人博士課程に進学した経緯や、

どのように研究と仕事を両立しながら博士号を取得したかについて、

連載記事の形でまとめることにしました。

今回はその第一弾として、

「社会人博士経験談パート1：食品企業入社から社会人博士進学までの経緯」

という内容で記事を書いていきます。

私の経験上、以下のような状況が社会人進学に大きく影響しました。

・大学との共同研究は、社会人博士進学のきっかけになりやすい。

・大学の研究室で自分でデータをとり、論文を書ける環境が望ましい。

・論文が書けそうなデータをもとに、研究室のボスから進学許可をもらう。

□

少しでも参考になることがあれば幸いです。

# 社会人博士経験談パート1：社会人博士進学までの経緯

## 入社から研究所への異動まで

生命科学系学部の修士課程を修了し、

新卒採用で現在所属する食品会社へ就職しました。

□

新入社員研修後は地方の食品製造工場へ配属され、

生産管理担当として数年間働きました。

□

仕事は特に大きなトラブル等はなく過ごしましたが、

「現場の人と会話内容が合わず、人間関係を作るのに疲れる」

「生産管理の仕事、自分はやりがいや楽しさを感じない」

という漠然とした不安や不満を感じていました。

□

そんな中、自分も予期せぬタイミングで研究所への異動を命じられます。

□

もしかしたら、不安や不満が顔に出ていて、

「こいつは工場から異動させた方がいい」

と上司に思われていたのかもしれません。

## 大学との共同研究の主担当に任命される

研究所異動直後は、研究所業務の研修を受けていましたが、

数か月後に、ある大学との共同研究の主担当に任命されます。

その内容は、大学の設備を借りて自分で実験してデータをとる

というものでした。

久しく自分で実験をしていなかったこと、

共同研究の内容が大学院時代の研究内容と全く異なっていたこともあり、

任命直後は不安しかありませんでした。

しかし、いろいろ考えた末、このチャンスはめったにないと腹をくくり

「大学の設備を使い倒し、意地でも結果を出す」と心の中に誓いました。

## 週6日以上は研究室へ行き、実験データをとり続ける日々

実際に共同研究が開始してからは、

週6日以上は大学の研究室に出向き、実験に没頭しました。

研究室の進捗報告にも毎回出席し、

データの共有やディスカッションに参加しました。

当初会社からは「大学へ行くのは週3回前後で」と言われていましたが、

気づいたらそういわれていたことも忘れ、

ほぼ毎日（土日含む）大学へ行っていました。

めぼしいデータが出るまでの1年間もかかりましたが、

研究に没頭するほど研究が楽しくて仕方なく、あっという間に過ぎていました。

そして、データが出始めたころ、あることに気づきます。

「この研究、うまくいったら論文書けるんじゃないか？」

「論文書けるなら、博士取得の道もあるんじゃないか？」

「会社研究所の重役は博士持ってるから、今後のことを考えても博士はあった方がいいかも」

そして、そのためには研究室のボスの推薦をもらうのが手っ取り早いと考え、

社会人博士進学に向けた行動を開始します。

## 研究室のボスから博士進学の推薦をもらう

社会人博士進学を実現するために、

まずは研究室のボスの許可をとることにしました。

アピールポイントは以下の2つです。

・論文を書けるようなデータが取れてきていること。

・研究をさらに発展すべく、会社との共同研究も継続する（＝研究費を支払う）。

論文という形で研究室の業績に貢献し、

会社から研究費を入れてさらに研究を発展させる。

この2点をもってアピールし、進学許可をもらいました。

□

後で聞いた話ですが、普段の研究の様子や進捗報告を受ける中で

「こいつは社会人博士に進学させてもいいかも」と思っていたらしいです。

□

このような形で、研究室のボスから社会人博士への進学許可をいただきました。

ボスからの許可は、会社を説得するにあたって非常に大きな材料となります。

詳しくは次回に書きます。

□

## まとめ

・大学との共同研究は、社会人博士進学のきっかけになりやすい。

・大学の研究室で自分でデータをとり、論文を書ける環境が望ましい。

・論文が書けそうなデータをもとに、研究室のボスから進学許可をもらう。

□

次は、会社の説得と入学試験について書いていきます。

興味のある方は引き続きご覧ください。

https://researcherinacompany.com/doctor-course-4/
□

## 研究職の転職が気になる方へ

本ブログ運営者のとうやは、研究職→研究職の転職に成功しています。

概要は以下の記事を参照ください!

↓

研究職の私の転職活動：内定を得ました!